

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 28 年 1 月 21 日 (2016.1.21)

【公開番号】特開 2014-235674 (P2014-235674A)
 【公開日】平成 26 年 12 月 15 日 (2014.12.15)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-069
 【出願番号】特願 2013-118432 (P2013-118432)
 【国際特許分類】

G 0 6 Q 50/06 (2012.01)

G 0 6 Q 50/10 (2012.01)

G 0 5 B 23/02 (2006.01)

【F I】

G 0 6 Q 50/06

G 0 6 Q 50/10 1 3 0

G 0 5 B 23/02 V

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 11 月 26 日 (2015.11.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

機器の保全作業における作業を構成する各手順を示す手順書と、
対象作業とその次の作業との時間間隔を示す保全間隔と、各作業を構成する各手順にお
ける保守対象機器のセンシングデータ及び作業時間と、を記憶した作業情報と、
作業判定処理部と、
を備え、
前記作業判定処理部が、
対象作業の保全間隔を、同種類の機器に対する同じ作業である他の作業の保全間隔と比
較して、前記判定対象の作業の優劣を判定する優劣判定工程と、
優れていると判定された前記対象作業を構成する各手順について、同種類の機器に対す
る同じ作業である他の作業を構成する手順の作業時間と比較して、前記手順書を修正す
ための手順およびセンシングデータを特定する手順特定工程と、
を行うことを特徴とする保守管理システム。

【請求項 2】

請求項 1 において、
前記優劣判定工程では、保全間隔が長い作業を優れた作業であると判定し、
前記手順抽出工程では、作業時間が長いまたは短い手順を、前記手順書を修正するた
めの手順として特定すること
を特徴とする保守管理システム。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 において、
前記作業情報は、作業員が使用する端末から入力される作業記録と、前記機器に取り付
けられたセンサが出力するセンサ値と、に基づいて作成されること
を特徴とする保守管理システム。

【請求項 4】

機器の保全作業における作業を構成する各手順を示す手順書と、
対象作業とその次の作業との時間間隔を示す保全間隔と、各作業を構成する各手順にお
ける保守対象機器のセンシングデータ及び作業時間と、を記憶した作業情報と、
を用い、
作業判定処理部が、
対象作業の保全間隔を、同種類の機器に対する同じ作業である他の作業の保全間隔と比
較して、前記判定対象の作業の優劣を判定する優劣判定工程と、
優れていると判定された前記対象作業を構成する各手順について、同種類の機器に対す
る同じ作業である他の作業を構成する手順の作業時間と比較して、前記手順書を修正す
ための手順およびセンシングデータを特定する手順特定工程と、
を行うことを特徴とする保守管理方法。

【請求項 5】

請求項 4 において、
前記優劣判定工程では、保全間隔が長い作業を優れた作業であると判定し、
前記手順抽出工程では、作業時間が長いまたは短い手順を、前記手順書を修正するた
めの手順として特定すること
を特徴とする保守管理方法。

【請求項 6】

請求項 4 または 5 において、
前記作業情報は、作業員が使用する端末から入力される作業記録と、前記機器に取り付
けられたセンサが出力するセンサ値と、に基づいて作成されること
を特徴とする保守管理方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そこで、本発明では、前記の課題を解決するための手段として、機器の保全作業におけ
る作業を構成する各手順を示す手順書と、対象作業とその次の作業との時間間隔を示す保
全間隔と、各作業を構成する各手順における保守対象機器のセンシングデータ及び作業時
間と、を記憶した作業情報と、を用い、作業判定処理部が、対象作業の保全間隔を、同種
類の機器に対する同じ作業である他の作業の保全間隔と比較して、判定対象の作業の優劣
を判定し、優れていると判定された対象作業を構成する各手順について、同種類の機器に
対する同じ作業である他の作業を構成する手順の作業時間と比較して、手順書を修正す
ための手順およびセンシングデータを抽出する。